|  |
| --- |
| 中小企業の動き（2020年４～６月期） |

「中小企業景況調査」（中小企業庁･独立行政法人中小企業基盤整備機構）によると、全国における2020年４～６月期の中小企業（全産業）の業況判断ＤＩ（前期比季節調整値）は－64.1で、前期より39.7ポイント低下し、６期連続の低下となった（図１）。

業種別にみると、製造業は－65.9（前期より38.5ポイント減）となり、８期連続で低下した。非製造業は－63.5（前期より40.0ポイント減）と６期連続で低下した。非製造業のＤＩの低下幅が製造業より大きかった。

非製造業を業種別にみると、全業種でＤＩが低下した（図２）。低下幅は、「サービス業」が49.1ポイント減と最も大きかった。

経営上の問題点は、「需要の停滞」がいずれの業種にとっても１位の課題であり、その割合も前期より大幅に高まった（図３）。一方、「建設業」と「卸売業」では、「従業員の確保難」の割合が低下した。

2020年７～９月期の業況判断ＤＩ（全産業）は、－40.8で、今期より23.3ポイント改善の見通しとなっている。

図１　中小企業の業況判断ＤＩの推移



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第160回中小企業景況調査（2020年4—6月期）」

（注）業況判断ＤＩは、「好転」企業割合－「悪化」企業割合。前期比季節調整値。

図２　非製造業の業種別の業況判断ＤＩの動き



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第160回中小企業景況調査（2020年4—6月期）」

図３　経営上の問題点（各業種３位まで）の動き



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第160回中小企業景況調査（2020年4—6月期）